令和元年度　　自己評価（活動計画）

学　校　教　育　計　画

香川県立多度津高等学校

教育方針	
	(1)自ら学び、考え、行動する意欲や能力を育てる。 (2)夢や理想に向かってチャレンジする精神や態度を育てる。 (3)自然との共生について認識を育てるとともに、伝統文化を理解し尊重する豊かな知性や教養を育てる。 (4)社会の担い手としての、望ましい勤労観・職業観や社会奉仕の精神を育てる。 (5)一人一人の個性を磨き、豊かな道徳性やたくましい精神力・体力を育てる。

前年度の成果と課題	本年度の重点目標	具体的目標	全体評価
・ミニ水族館を昨年に引き続き公開した。それに併せて緑のカーテンも公開できた。 ・地元企業でのインターンシップや地域の老人ホームへのボランティア活動を行った。 ・ホームページの更新が不十分であり、最新情報の公開ができていなかった。 ・造船コースに県外や企業からの派遣講師を依頼し、教育内容の充実を図っている。	・地域や産業界と連携し、専門教育の充実を図る。 ・各学科の取り組みを深化させ、魅力ある学校づくりに努める。 ・創立100周年の記念事業について各委員会で準備を進める。 ・造船コースについて、３年次の授業や実習を検証し、改善点を考察する。 ・新実習船による航海実習を通じて、水産海洋教育の充実を図る。	・インターンシップやボランティア活動を通して専門性や人間性の向上を目指す。 ・体験型学校見学会の実施、定期的な中学校訪問を通じて、本校の魅力を伝える。 ・TAKOしかわら版の工夫やホームページの更新回数を増やすなど、情報発信を充実させる。 ・メリフォール部会は定期的に建設実行委員会を開催する。記念誌部会は印刷業者を決定し、資料の収集を行う。 行事部会は式典までのタイムスケジュールを作成する。 ・外部講師の授業を活かし、より現場に近い実習を行う。造船業界への人材育成を図る。 ・１，２学期の航海実習から反省点を改善し、実習の方法や内容を充実させる。	B

評価項目			本年度の主な活動目標	主な具体的方策	評価 中間	評価 年度末	成果・反省点・次年度の課題等
1	総務		施設・設備を充実させて校内の環境を整え、学校全体の運営が適正に進められる一助とする。	役割分担を明確にし仕事内容に見合うを配置を行うとともに、事務部と連携して必要物品を迅速に購入する。	A	B	百周年に向けた仕事では、割り当て不十分なところがあったので、次年度で修正しておきたい。物品の購入を迅速にすることができた。
2	教務		学校行事及び校務分掌、学科、学年団等の活動を円滑に行う。	学校行事の際に学科、学年団等と連携を密に行い、関係職員が積極的に関わる環境を整える。	A	A	中高連絡会などの中学校を対象とした行事も教務が中心となり、各部署と連携し、円滑に運営できた。
3	特別活動		ボランティア活動への取り組みの活性化。	十数年内に発生が予測される南海トラフ地震に向け、互助の意識向上を目指す。	C	C	生徒間の温度差があると感じている。多くの生徒が互助の意識を持てるよう努力したい。
4	生徒指導		生徒の問題行動の減少。	昨年の発生状況を分析し、事前予防を徹底する。	C	B	今年度は昨年度と問題行動の内容も変化してきており、しっかり分析したい。
5	教育相談		教育相談体制の充実。	カウンセリングにより支援の必要な生徒を把握し、個に応じた支援をする。	B	B	カウンセリングによって心を軽くすることができる生徒がいる一方で、深く係われていない生徒もいる。外部機関との連携は、可能な限りできている。
6	進路指導		生徒の希望に沿い、適性に応じた進路実現100％を目指す。	就職に関しては様々な方法で、各種情報の公開と相談を行う。進学については情報を得る機会を増やし、受験対策についても考えていく。	B	A	就職・進学とも内定･合格が決まり､目標を達成できたといえよう。
7	人権・同和教育		人権問題について正しく認識させ、問題解決のための行動力と実践力を身に付けさせる。	参加型学習形態のロングホームルームを通して積極的な取り組みを行う。	B	A	校内での諸問題を、他人事として扱わず、自分のことと捉え、問題解決に向けて取り組める姿勢が見られるようになった。
8	保健管理		保健指導の徹底や生活問題の個別指導を行う。	自分の体調やけが等事後処置の大切さ・予防や健康に関する指導を行っていく。	A	B	けが等の事後指導の徹底。保健委員で感染症への対策を放送で知らせる。早期に対応できるように指導する。
9	いじめ防止対策		いじめの早期発見に努め、深刻な事態の発生を未然に防ぐ。	いじめに関する情報収集、情報共有を図り、効果的な指導方法について検討する。	B	B	大きな事案が発生し、想定していた対応の不備が明らかになった。しかし、関係職員が連携し、事案解決の目途が立ち、学校としての対応も改めることができた。
10	学年団	１年団	社会性･公共心を身につけさせ、場面に応じた適切な行動ができるように指導する。	学校生活のあらゆる場面での基本的生活習慣を身につけさせ、規律と責任ある行動がとれるように指導する。	A	B	特定の生徒が生活習慣が確立されていなかったり、気の緩みがみられる。学年団・各科等を通して強く指導していく必要がある。
11	学年団	２年団	具体的な進路目標を早い時期から持てるように指導する。	進路指導部および各科と連携して、生徒が進路目標を設定できるように保護者に協力を仰ぐ。	B	A	進路指導部と連携しながら、個別面談を適宜行うなど､各科で協力して、就職･進学への準備を早めに開始できている。
12	学年団	３年団	生徒の希望する進路目標達成のための適切な学習指導・生活指導にあたる。	担任と進路指導部、教科・学科が連絡を密にして面接を頻繁に行い、進路希望と適性を的確に把握して指導にあたる。	A	A	進路指導部や各科、担任の連携のおかげで、ほとんどの生徒は、希望の就職先に内定をいただけた。進学生徒も、進学先を決めた。
13	教科指導	普通科 国語	他の意見をよく聞き、自分の言葉で事実や意見を的確にまとめ、総合的に伝達能力を高める。	読み取ったことについて意見交換したり、文章にまとめたり発表したりする。また、聞く能力を高めるために、リスニングなどを取り入れる。	B	B	コミュニケーション能力を身につけるためにも、人の意見を理解したうえで、自分の意見を的確に表現できるよう、今後も根気強く指導を継続していく。
14	教科指導	普通科 地･公	基礎知識の定着を図り、就職や進学に役立つようにする。	興味・関心をひき出す話題や教材の提示。ノートの整理やワークシートへの用語記入の徹底。	B	B	それぞれの科目担当者の工夫で、生徒の興味関心が高まり、2学期末の成績や3年の卒業考査で、成績の向上が見られた。
15	教科指導	普通科 数学	基礎学力の定着。	課題提出の徹底。追試や補習授業など特別指導および個別指導。	B	B	今年は学力の低い生徒が多く、個別指導を多く取り入れた。来年度も基礎学力定着に向けて、指導を継続していきたい。
16	教科指導	普通科 理科	科学的な思考を習得させ、進路に必要な学力や自然観を育てる。	演示・生徒実験を効果的に実施することにより、科学的な思考を身に付けさせる。	B	B	多くの生徒実験は行えなかったが、演示実験やＩＣＴ教材での確認を行えた。
17	教科指導	普通科 保体	身近な健康問題や健康の考え方、知識を学習する。	健康自体のとらえ方や健康のために個人や社会に求められている変化を理解する。	B	B	自己管理の意識付けは今後も継続で根気よく生徒へ指導したい。
18	教科指導	普通科 芸術	基本的な技術を身に付け、表現活動の中で美に対する感性を養う。	ワークシートを活用し、到達目標を具体的に設定しておき、主体的に学習できるようにする。	B	B	生徒相互の作品鑑賞をしながら授業の集大成となる作品を制作させることができた。
19	教科指導	普通科 英語	英語に興味関心を持たせ、積極的にコミュニケーションする態度を身に着ける。	生徒が退屈しない授業を心がける。授業以外でも、ＡＴＬとのコミュニケーションをとる。	A	A	異文化を理解しようという気持ちは高まっており、これと絡めて学習意欲を高めていきたい。
20	教科指導	普通科 家庭	家庭生活に必要な基礎基本の定着を図る。	個々に活動する実習を積極的に取り入れ、技術の定着を図る。	B	B	家庭生活に必要な知識・技術を概ね身に着けさせることができた。
21	教科指導	専門科 機械	身につけた知識や技術を活用できる能力の育成とものづくりの楽しさを知る。	課題研究での製作活動を通して、身に着けた技術や知識が生かせることを実感させる。	B	A	企画・製作・完成・発表を通じて、「ものづくり」に携わる若者に、考え方や姿勢を感じさせることができた。
22	教科指導	専門科 電気	専門分野に関する基礎知識や技能を身につけた電気技術者を育てる。	電気の専門教科に興味関心が持てるようにわかりやすい授業を行う。	B	B	各学年とも学期が進むにつれて成長を感じることができた。しかし、一年生に不登校となる生徒が出てきたのが気がかりである。
23	教科指導	専門科 土木	基礎的な知識・技術を定着させ、土木技術者に求められる資質や能力を養う。	座学と実習を関連付けて、実践的・体験的な活動から学習の動機づけを図る。	A	A	全学年を通じて生徒一人ひとりの成長が感じられる。
24	教科指導	専門科 建築	就職を意識した、建築への興味・関心を持った授業を展開する。	授業において、参考資料や映像など教材を生かした取り組みを行う。現場見学などを企画し自発的な参加を促す。	B	A	おおむね達成していると感じる。古民家プロジェクトを展開しているが、授業への関心も深まることが期待される。
25	教科指導	専門科 技術	実習指導の充実・安全教育の推進。	望ましい勤労観、道徳心や社会性、一般常識の育成を図り、安全教育を推進する。	C	C	母艇の老朽化、教員の高齢化により、特に海上での実習において注意が必要である。事故を起こさないよう事前の計画、整備に取り組む。
26	教科指導	専門科 生産	専門教育における教科の専門性を高め、生徒の学習意欲を引き出し、さらに地域や産業界への貢献を図る。	実験・実習を通して新しい食品開発や養殖魚の開発を行い、さらにその研究成果を学会やマスコミに積極的に発表する。	C	A	新商品開発等で環境大臣賞を受賞するなど成果を出せた。学会や研究大会、マスコミ等への発表を積極的に行い海洋生産科のPRが出来た。

※年度末評価（最終目標達成見込み）：Ａ　８０％以上（順調に実施でき目標を達成できた）　Ｂ：７９～６０％（やや遅れ気味であったが目標は達成できた）　Ｃ：５９～４０％（遅れ気味で目標達成が難しい）　Ｄ：３９％未満（年度内の目標達成が困難である）